

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600666
法人名	社会福祉法人 新生会
事業所名	グループホーム もやいの家・泉
所在地 (電話番号)	岐阜県揖斐郡池田町本郷1501 (電話) 0585-45-5545
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年9月3日

【情報提供票より】(19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 4 人, 非常勤 11 人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り 平屋建て
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 89 歳	最低	84 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新生病院、今村医院、香田歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境の町中に法人の施設とともにあるホームである。ホーム内は明るくゆったりとしていて、小犬が愛想を振り撒いている。また、ベビーボランティアと呼んでいる、幼児を連れて定期的にたずねてくる方がいてその幼児が利用者の心を和ませ家庭的な温かい雰囲気を作っている。利用者に対するアセスメントは丁寧にされ、特技や思いなどが「強み」として記録され、きめ細かな支援がされている。利用者の状態を丁寧に把握する事によって、利用者が生き生きと主体的に生活する「共に支えあうケア」の実現が出来ている。職員の研修体制は、段階に合わせた研修や法人の強みを生かした他施設での研修も行なわれており、地域の福祉のレベルを上げるという思いが職員の中にも、しっかり意識されている。母体施設が30年の歴史の中で目指してきた、利用者の尊厳を支えるケアが大切にされている。最後までその人らしく生きる事の希望をかなえるターミナルケアへの追求・実践を期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で指摘されたリスクマネジメントについては、取り組みがなされ改善された。ヒヤリハットの記録が作成され、全員のサインがされていた。また、食事・排泄・移動・入浴・夜間のそれぞれの観点から全員の分のリスク表が作成されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価、外部評価をケア体制を見直すよい機会と捉える姿勢があり、過程から結果まで職員全体で共有し、ケアの改善や工夫につなげている。また結果をフェイルシ家族や来客者に閲覧している。今回の外部評価に対する自己評価だけでなく、毎年12月に全員が自分たちのケアを振り返り、自己評価を行い、ケアの向上に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度の地域住民、行政、家族代表、外部評価委員、職員との運営推進会議では認知症やケアについての地域理解を深めてきた。在宅の人が親孝行だという家族の思いなど、職員が思う以上に地域の意識の遅れを知ることが出来、地域の意識と福祉レベルを上げる必要性を痛感した。職員とは異なる視点からの意見を聞くことがサービスの充実につながり、地域と協力しての夏祭りなどの交流の実現につながっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情箱が玄関に設置されているが、より家族や利用者の思いを汲みあげるために、地域の各方面からの外部評価委員を契約時に相談窓口として紹介し、気軽に電話するよう呼び掛けている。また、年に2回評価委員による家族や利用者に対するよろず相談も行い、声が届きやすいシステムを作っている。苦情は苦情シートに記録し改善につなげ、運営に反映している。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に開かれたホームであり、見学や地域ボランティアを多く受け入れている。レクリエーションなど地域の方の参加が多く、盆踊りは地域を巻き込む大きな楽しい行事となっている。また地域の文化祭や運動会、法人の学校行事に利用者が積極的に参加して交流している。幼児との交流も心温まるものである。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の高い理念を持ち、その理念を事業所の目標として具体化し、利用者が今までの暮らしを継続できるようなサービスの向上に日々取り組んでいる。また家族に対し理念を十分説明し分かち合っている。法人全体で一致したケアを行い、安心して暮らせる社会作りのため努力している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実際実感できるよう職員の体験研修とし、オムツ体験・障害施設体験・ミキサー食体験・寝たきり体験等行っている。体験を通して職員が家族や利用者に対等であることを実感し、一人ひとりを大切にケアが充実している。また接遇目標や事業計画、年間計画を作成し、理念が日々の実践に評価されよう取り組み、継続評価も行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に開かれたホームであり、見学や地域ボランティアを多く受け入れている。レクリエーションなど地域の方の参加が多く、母体施設の盆踊りは地域を巻き込む大きな楽しい行事となっている。また地域の文化祭や運動会、法人の学校行事に利用者が積極的に参加して交流している。定期的に訪問する幼児との交流も心温まるものである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を通してケア体制を見直すよい機会と捉える姿勢があり、評価の過程から結果まで職員全体で共有し、ケアの改善や工夫につなげている。また結果をファイルし家族や来客者に閲覧している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、地域住民、行政、家族代表、外部評価委員、職員と共に運営推進会議を開催している。運営推進会議では認知症やケアについての地域理解を深めることを心がけている。また職員とは異なる視点からの意見を聞くことがサービスの充実につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員が県の実践者講習やリーダー研修の講師を務めるなど地域の福祉の質の向上に行政とともに取り組んでいる。地域包括支援センター主催のケアマネ会議にも参加し、情報共有や発信などに努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人発行の機関紙「陽の里」やグループホーム便り「もやい通信」で利用者の日ごろの暮らしや行事の様子などを写真入で伝えている。また、その中で職員の異動や定期的にくられるボランティアの紹介も行っている。家族の面会の際には、ケアプランの見直しや体調等のカンファレンスを行ったり、金銭的な報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を玄関に設置し、家族からの要望や苦情を受けようようにしている。また地域の各方面からの外部評価委員を契約時に相談窓口として紹介し、気軽に電話するよう呼び掛けるなど家族等の思いを汲みあげる努力をしている。苦情は苦情シートに記録し改善につなげ運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は出来るだけ最小限に抑えている。異動の際は利用者のダメージを小さくするよう順次穏やかに異動するようにし、また引継ぎを丁寧に行っている。また離職を防ぐよう、段階的な研修や職員に対する言葉かけを工夫し、リフレッシュ休暇や親睦会を実施し、働きやすい職場作りに努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が作成されており段階に応じた研修が行なわれている。新人の育成に関しては、少し上の職員が新人を教育するエルダー制が取られ、育成計画に基づいて研修が行なわれている。他部署間研修や階層別研修も行なわれ、研修先からのコメントをもらい、研修報告を公表しあい、ケアに生かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム5箇所と2ヶ月に1度会議を行い勉強会や交流を行ない、ターミナルなどの共通の課題に取り組んでいる。新人研修と中堅研修を他施設で行ない、良いところを取り入れ質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに馴染めるよう、段階を経た馴染みの準備を工夫しており、見学・ディサービス・ためし利用を活用し、少しずつホームに慣れるようにしているので不安や混乱が少なく、優しいサービス利用開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干作りやラッキョウ漬けなどや畑作業などを利用者が自信を持って行っている。一人ひとりの出来る事が丁寧に把握され、教えあい喜び合う関係が、利用者と職員とで築かれている。実習生やボランティアへの利用者の励ましの言葉やベビーボランティア幼児を世話する利用者の生き生きした姿は、常日頃の支えあう関係を象徴している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に本人や家族に対し多方面からアセスメントがされており、どのような希望があるのか、どのような特技や好きなものがあるのか、現在どのような状態なのか職員間で共有されている。職員が常に利用者の言葉や笑顔を引き出すよう心がけており、喜んで取り組める事に対してサポートを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム職員だけではなく、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士など、様々な職種が関わりアセスメントを行っている。また、出来なくなったことや行動障害だけでなく、「強み」アセスと名づけた、得意なこと、好きなこと分野をケアに活かそうとする取り組みが介護計画と実際のケアに反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員、家族等話し合いがなされ、介護認定に合わせ6ヶ月ごとに介護計画の見直しが行われている。また、随時、体調の変化等に合わせ、訪問看護ステーションの看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など他職種とのチームアセスメントにより、一人ひとりの現状に即した介護計画の見直しが行われている。	○	安定しているような場合でも、1～3ヶ月に1回程度、定期的に介護計画の遂行状況の確認を期待したい。その結果介護計画の変更がなくても、定期的に確認することにより、小さな変化や気づきが予防的な対応になるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、かかりつけ医への通院の他、月2回の精神科受診や地域の歯科医、皮膚科医の往診治療も対応可能である。外食支援や買い物支援の送迎を利用して馴染みの美容室へ出かけたり、週末には家に帰り家族と畑仕事をするなど、今までのくらしや地域とのつながりを大切にしながら柔軟な支援がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急対応は、24時間連携の取れる母体施設の医療機関となるが、日常の受診は、本人や家族の希望に応じてかかりつけ医の選択ができる。通院は家族同行が基本となっているが、やむを得ない場合は職員が付き添い外出同行サービスがあり、どちらの場合も受診結果に関する職員・家族との情報の共有がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体施設にターミナル研究会があり、連携してターミナルの勉強会を行っている。また、重度化対応指針や見取り指針を作成し、入所時に本人・家族から終末の意向を確認している。随時重度化の状態に合わせ本人・家族の意向を確認しながら、医師、訪問看護事業所の多職種とのアセスメントにより、関係者全体で方針が決定・共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年間の研修計画にプライバシーの保護や個人情報の保護研修会が計画・実施され、職員は一人ひとりの生活歴や誇りに配慮したコミュニケーションに心がけている。ケースファイル等個人情報の保管や玄関の表札や写真の掲載等も本人や家族の同意を得てなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所するまでの生活や歴史、生き方、嗜好などが丁寧にアセスメントされ、本人の希望を大切にしながら支援が行われている。起床、入浴、散歩や買い物等、利用者のその日の状態やペースに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好や力が把握されており、買い物、調理、盛り付けや配膳、後片付けまで利用者と職員が行っている。訪問時は手作りの梅干、ラッキョウ、紅ショウガ、季節の花々がテーブルに置かれ、作り方など楽しい会話の中で一緒に食事がなされていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後4時から8時まで個浴のゆったりした入浴支援が行われている。気分や体調により希望の時間帯や湯の温度等の配慮がなされ、ゆず湯やバラ湯など入浴剤を利用して週3回以上の入浴が楽しめるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	丁寧なアセスメントによって一人ひとりの生活歴を理解し、好みや有する力などが「強み」として把握されている。趣味の貼り絵や手毬作り、畑仕事や太巻き・おはぎ作りなど一人ひとりの経験や知恵が生かされ無理なく継続できるよう支援している。盆踊りや敬老会など楽しみな行事参加への支援も行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の利用者の状態や希望に応じて散歩や買い物、喫茶店や外食等、積極的に戸外に出掛ける支援がなされている。梅干作りの梅をもぎに気分転換に季節のドライブに出掛けたり、週末には自宅に帰り畑仕事をするなど、地域との交流や豊かな生活支援として一人ひとりの希望にそった外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、ベランダ、裏口ともに鍵はかけられていない。外出で危険を伴う利用者には、思いや行動パターンが把握され付き添い支援を行うなど、母体施設、近隣の連携・見守りが行われている。裏口にはすぐ隣家があり、顔を見てのおすそ分け等もなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、協力病院、母体法人特養、地域住民の協力をえて、消防訓練が行われている。消防計画や災害時のマニュアルが作成され、定期的に非常災害時の避難訓練や防災訓練、緊急連絡簿の連絡訓練など昼夜を想定した訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事がチェックされ、パソコンで管理し職員で共有している。一人ひとりの嗜好が把握され、嚥下・咀嚼状態に合わせた配慮がなされている。それぞれお気に入りの茶碗やお箸を使用し、手作りのゆかりや梅干、ラッキョウなどがテーブルに用意され、食が進まない利用者にもさりげなく食が進むよう支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなベランダより柔らかな日差しがカーテン越しに居間に入り、庭には利用者が植えたサツマイモやサトイモの苗が豊かに育った畑がある。玄関や居間などには観葉植物や季節の花が飾られ五感や季節感が意識的に取り入れられている。居間に隣接する和室には利用者が花をたてた仏壇があり、強制されない一人ひとりの自由な行動が守られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、自室と認識しやすいよう、馴染みの家具や小物、写真、趣味の道具、神棚などが持ち込まれ、その人らしい居心地の良い居室作りがなされている。居室のドアは閉められており、プライバシーを大切に安心してゆっくり過ごす事ができるようになっている。		